

林間学校のお風呂、クラス全員に裸を見られた思い出

あれは小学校5年生の夏、林間学校での忘れられない夜だった。山奥の宿泊施設での2泊3日のキャンプは、ハイキングやキャンプファイヤーで大盛り上がりだったけど、一番心に残っている

のは、入浴タイムでのとんでもないハプニングだ。

入浴はクラスごとに時間割が決まっており、1クラスずつ順番に浴室を使うルールだった。でも、施設の脱衣所はびっくりするほど狭く、全員が一度に入るのは無理だった。スケジュールが詰まっていて、次のクラスは浴室前の廊下で整列して待機しなきゃいけなかった。男子には「部屋で服を脱いで、パ

ンツ一枚で廊下に並びなさい」という指示が出され、女子の私たちはタオルを抱えて待ってる間に、男子たちがぞろぞろやってくるのを見ていた。

男子たちは、ほとんどが白いブリーフ、たまに色付きのトランクス姿で、肩をすぼめてモジモジしながら並んだ。いつもやんちゃな翔太くんは、ブリーフのゴムをピチピチ鳴らして「うわ、

寒っ！」ってふざけてたけど、目がキョロキョロして、めっちゃ恥ずかしそうだった。優等生の健太くんは、顔を真っ赤にして俯いて、まるで「見ないでくれ」ってオーラ全開。女子の間では、沙羅ちゃんが「ねえ、翔太くんのパンツ、ちょっとダサいね！」って小声で囁き、弥奈ちゃんが「しー！ 聞こえたら可哀想じゃん！」って慌ててた。私も、男子のパンツ姿をこんな近くで見るなんて初め

てで、心臓がドキドキして、
目をどこにやっていたいいか分
からなかった。いつも教室で
騒がしい男子たちが、こんな
無防備な姿でいるのって、
なんか不思議だった。

でも、事態はもっと衝撃的な
方向に進んだ。入浴時間が
押していたらしく、担任の佐
藤先生が、廊下にドカドカ
入ってきて、こう叫んだ。

「男子！ 時間がないから、
ここでパンツ脱いじゃいなさい！ ほら、早く！」

その瞬間、廊下が静まり
返った。男子たちの顔は一
気にトマトみたいに真っ赤に
なり、女子の間からは「え、
うそ！？」「マジ！？」って小
さな悲鳴が漏れた。私も頭
の中で「え、先生、冗談で
しょ！？」って叫んでた。テ
レビで男の子の裸が普通に
映るような時代だったけど、

クラスの男子が女子全員と先生の前でパンツを脱ぐなんて、想像もしてなかった。

「えー！ やだよ、先生！ 恥ずかしいって！」と、翔太くんが叫んだ。いつもふざけてる翔太くんだけど、この時ばかりは本気で嫌がってるのが分かった。隣の龍太くん——クラスのリーダー格で、いつも堂々としてる子——も「いや、さすがに...」ってブツブツ文句言って

た。でも、佐藤先生は容赦ない。「時間が無いんだから、早くしなさい！」って、ピシヤリと一喝。先生が目がキラッと光って、なんか「この状況、ちょっと面白がってる？」って気配がした。

最初にパンツを脱ぎ始めたのは、大人しい優斗くんだった。いつも静かで図書室で本を読んでるイメージの優斗くんが、顔を真っ赤にして、チラッと女子の方を見た

後、すぐに目を逸らして、白いブリーフをスルッと下げた。脱いだブリーフを両手でギュッと握って、股間にピタッと当てておちんちんを隠してた。おちんちんは、ほんの一瞬だけ見えたけど、小さくて、ピンクがかった色で、毛もほとんど生えてなくて、なんか子どもっぽい感じだった。沙羅ちゃんが「キャッ！優斗くん、ちっちゃい！」って小声で叫び、弥奈ちゃんが「やだ、見せないでよ！」っ

てタオルで顔を半分隠して
た。私も、ついガン見し
ちゃって、慌てて目を逸らし
たけど、正直、興味津々だっ
た。